

日添神楽

日本の各地に残る伝統芸能に神楽があります。備中神楽、石見神楽、高千穂神楽等々。なかでも宮崎県には多くの神楽が伝承されています。その発祥は平安時代とのこと。

宮崎を代表する神楽が、高千穂神楽と椎葉神楽。どちらも国の重要無形文化財です。2つの地域は隣り合っていますが、高千穂は国生み神話、椎葉は山の生活と、神楽の内容は大きく異なります。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

昨年末、椎葉村の日添地区の神楽に参加させていただきました。

村の中心部から車で1時間。この先には集落がないという山の集落。近隣の3つの集落を合わせて90世帯。日本に唯一残存する伝統焼畑を維持しておられる集落です。そこの民宿「焼畑」に泊めていただきました。知る人ぞ知るクニ子婆ちゃん（伝統的な生活の知恵が豊かで、400種以上の植物を弁別し、食物にすることができる）の民宿です。

訪ねて最初に見せられたのが50年前と60年前のヒエ。ヒエはいつまでも保存できるのだそうです。だからこそ、厳しい山の気候にもかかわらず、椎葉の人々は飢えることがなかったとの話。「実家は桓武系の平氏、今のうちは清和系の平氏」と、さすがは平家落人



▲神楽の風景

の村と思うお話も聞きました。

神楽は夜に始まります。会場は公民館。昔は民家でやっていたそうです。会場に祭壇が設けられ、イノシシの頭が捧げられています。その場で神様に奉納するのが神楽。神様といっしょに楽しむ場のようなようです。神様とともに飲食し、神楽を楽しむ。最初は厳かに。やがて賑やかに。夜も更けると、踊り手にヤジを入れたり囃子を入れたりします。子供神楽の時には、おひねりの1万円札が何枚も飛びます。賄いの奥さんたちも囃子を入れます。舞い手が上手に舞うと「踊りはうまいが嫁取りは？」などとヤジが飛びます。みんなまちまちで、知り合いとの会話を楽しむ方、横になって休む方、囃子を楽しむ方、仕事の根回しをする方、選挙運動に来られているような方など。視線は神楽に向けられていますが、実際の楽しみ方はきわめて多様。お互いよく知り合った世界で、精一杯楽しまれている雰囲気でした。神楽が芸能であるとともに、人々をつなぎ合わせる場でもあることを実感しました。

（MBO実践支援センター代表）

